

今月のイチオシ「やまシリーズ」

近江八幡市の「八幡山の整備で里山愛醸成」を発信します

近江八幡市のランドマークともいえる八幡山に市民が親しみ、誇れるようになることを目指して八幡山の美しい里山の再生、保全活動に取り組んでおられる団体を紹介します。

近江八幡市では、2001年から退職男性の閉じこもり対策、居場所作り、仲間づくりを目的として「おやしサロン-男の料理教室講座」が開催されてきました。

それに参加した“おやし“たちが地域でボランティア活動するようになり、現在25団体、約350名の会員がボランティア活動をしています。(近江八幡おやし連)

【八幡山の景観を良くする会とは】

「八幡山の景観を良くする会」は平成17年春に設立し、以来450回延べ7500人のボランティアが毎月3回里山整備活動に取り組んでいます。会の目的は、美しい里山景観の再生とその保全の仕組みを次世代に伝え残す、市民が親しみ誇れる山を目指す、子どもたちが野外遊びを楽しめる明るく安全な里山を作るの3つです。

八幡山は、かつては荒廃竹林が広がり、また立派なコナラ林も葛のツタや笹竹・雑草に覆われ、市民も立ち寄らない薄気味悪い状態でしたが、「八幡山の景観を良くする会」は八幡山をよみがえらせようと環境整備や美化活動に取り組まれてきました。

一方同年には八幡山北の丸から百々神社までの縦走路を開通させ、毎月の整備活動の結果、近県からも多くのトレッキングを楽しむ団体が来幡する事につながっております。

こうして整備した八幡山を知ってもらうため、春には「地元小学校2校の卒業記念植樹会」「親子たけのこ掘り大会」、秋には「親子八幡山縦走ハイキング会」などを開催し、里山に親近感をもってもらえるようアピールされています。

近江八幡では「八幡堀を守る会」という歴史ある環境保護活動団体が既にありましたが、「八幡山の景観を良くする会」が活動を始め、その後河川・びわ湖岸・沼などの環境を改善する団体が次々と誕生する先駆けとなりました。



太い孟宗竹も1本ずつほぐして処理



残雪残る中での竹林整備



活動開始以来満14年・平均年齢75歳？



年齢も顧みず、竹林石垣の整備作業



縦走路整備・北虎口上展望台にて休憩



4月の親子笹掘り大会／総勢250名参加



11月の親子八幡山縦走ハイキング会